



ふれあい

題字 西村 系子

瀬田東文化振興会
ビジョン
地域視点で新しい文
化を創造し住みつ
けたいまち「瀬田東」

☑滋賀県大津市瀬田東文化振興会の情報は、HP 瀬田東文化振興会を検索ください。



山ノ神遺跡「植樹で迷路づくり」



三月二十六日(土)、山ノ神遺跡広場にて、植樹イベントを開催しました。
五十六組、百二十三人の皆さんが参加してくださいました。植樹いただいた木には、それぞれの名前を記入していただき、オーナーになっていただきます。迷路が完成するその日まで、みんなが木の成長と子ども達の成長を見守りましょう。

山ノ神遺跡「植樹で迷路づくり」

瀬田東学区の玄関口学園通りでの啓発活動ノ一ポイ運動を始めてから25周年になります。当時から考えるとゴミの量も1/8程度と少なくなりました。店の人達が自ら掃除する姿が見受けられます。このことが要因のひとつであり一定の効果があったのでしょうか？自分たちの街は自分たちで美しくしようと言う気がまえで頑張っ続けていきたいものです。ご参加をお待ちしています。



会長就任のご挨拶

瀬田東文化振興会 会長 竹内 稔

令和三年度をもって、吉居会長が退任され、その後任として任命されました。会長職という重責を全うすべく、微力ながら事業運営に鋭意努めてまいり所存であります。

令和二年に新型コロナウイルス感染症が確認されて以降、各種行事の大半を中止せざるを得ず、苦渋の決断を余儀なくされてまいりましたが、昨年度は感染対策に万全を期し、親子のふれあい事業としてのしめ縄作り体験や、まちづくり推進事業として山ノ神遺跡での植樹イベント等、健康最優先の観点から開催可能な範囲内で実施いたしました。

今年度に関して、依然収束の見通しが立たない予断を許さない状況ではありますが、安心・安全を担保すべく、事業の見直しなど、行事のあり方の面から熟慮の上、事業を行ってまいりたく思っています。

地域の皆さまには、これまで同様、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新型コロナウイルスが終息し、私たちの生活や文化活動が心置きなく楽しめる日が一刻も早く来ることを願って、就任のご挨拶とさせていただきます。

瀬田東文化振興会 HPQR コード

文化振興会の様々な活動を紹介していますので、ぜひご確認ください。



瀬田東文化振興会だより(52号)
発行日 2022年5月1日
編集人 広報部
発行所 瀬田東文化振興会
大津市一里山三丁目16-1
大津市瀬田東公民館内
077-545-9001
発行責任者 竹内 稔

令和4年度活動予定

- 5月
 - 文化ゾーンみどりのつどい
 - 東っ子事業 「ふしぎな絵の世界」& 「ホタルの魅力を学ぼう」
- 6月
 - 山ノ神遺跡草刈り
 - 東っ子事業 「陶芸制作教室」
- 7月
 - 東っ子事業 「長沢川の歴史と探索」
- 8月
 - 瀬田公園からの森フェスタ
- 通年
 - 学園通りノ一ポイ啓発運動
 - 幼稚園・こども園交流活動

「特集」 織部古墳 瀬田地域のモニュメント
滋賀県文化スポーツ部文化財保護課 福西 貴彦

私が瀬田に住み始めて、今年の四月で十年目を迎えます。引越してきた当初は仕事にもまだ慣れず、一か月くらいはなかなか落ち着かなかつたことを思い出します。五月の連休明けくらいからは少し余裕もでき、また、当時は旧東海道沿いに住んでいたこともあって、家族と周辺の散策に出かけたものでした。

そんな散策の中で、今回の織部古墳を見つけました。厳密には織部古墳を顕彰する石碑を見つけました。場所は天津市大萱三丁目、JR瀬田駅から東へ約七〇〇mの住宅地です。



写真1

石碑にはこう記されています。
「この奥銅鏡等出土織部高山古墳跡」(写真1-右)
「昭和六十年十一月 瀬田史跡会建之」(写真1-左)

これを見たときは、「こんなところに古墳があったんやなあ。しかも銅鏡が出てきたんや。」くらいにしか思っていま

瀬田東文化振興会では、幼少年期に様々な体験活動を通じて、しっかりとした学びの芽を育てることを目的とし、東学区の保、幼、小、小Pと協力し活動をしています。応援よろしく

粘土槨とは、木製の棺を粘土で包み覆った墓のかたちです。そのため、棺や中の遺体は朽ちてしまい、鏡や刀剣などが残ったのでしよう。そして、刀剣類の上に鏡を置いた状態で副葬されたのだと考えられます。

さて、滋賀県内では、栗東市出庭亀塚古墳、野洲市大岩山古墳群、近江八幡市、東近江市、竜王町にまたがる雪野山古墳から三角縁神獸鏡が出土しています。しかし織部古墳は円墳で、さほど大きくありません。なぜこの古墳から三角縁神獸鏡が出土したのでしょうか。

まず古墳の形や規模から考えてみたいと思います。滋賀県文化スポーツ部文化財保護課の細川修平さんは、古墳時代前期の前方後円墳は、規模から大きく三つに分類できると述べています(5)。墳丘が120m級、60m級、30m級です。このうち120m級の前方後円墳は『琵琶湖地域』の首長墓ではないかとしています。それに

これに対し60m、30m級は「それぞれの地域単位の首長権を表現したもの」としています。つまり、120m級の前方後円墳である滋賀県最大の近江八幡市安土瓢箪山古墳、大津市膳所茶臼山古墳はまさに近江の王様のお墓、60m級に当たる雪野山古墳や30m級の前方後円墳は各地域の有力者のお墓ということ。織部古墳は前方後円墳ではなく円墳ですが、30m級に相当するものと考えられます。つまり古墳時代前期の瀬田地域の権力者のお墓だったのかもしれない。

次に古墳がある瀬田地域の立地や地形について考えてみます。時代は下りますが、瀬田地域には古代東山道が通り、瀬田の唐橋が架けられ、近江国府が置かれました。壬申の乱や源平合戦など、多くの戦乱の重要な戦いが繰り広げられた場所でもあります。これは瀬田地域が琵琶

わる頃、いわゆる『魏志倭人伝』に登場する「邪馬台国」の「卑弥呼」が、魏に朝貢したところ、皇帝が大変喜び、「親魏倭王」の称号と「金印



写真2

紫綬」、「銅鏡百枚」を授けたとあります。この「銅鏡」が三角縁神獸鏡であると考えられているのです。では、織部古墳の当時の状況や、どのように鏡が発見されたのでしょうか。

まず、大正三年(一九一四年)の『考古学雑誌』第四巻第十二号に「近江國瀬田村の発掘品」で紹介されています(1)。これによると明治四十二年(一九〇九年)に、当時の栗太郡大字瀬田村大字南大萱字織部で、三角縁神獸鏡一枚、土器片一点、鉄板、長さ八寸五分(約26cm)、幅約二寸二分(約6.7cm)が一枚、斧二点、剣の破片などが見つかったとのこと。さらに大正二年(一九一三年)に同地の人、片山幸太郎さんから東京帝室博物館(現東京国立博物館)に寄贈されたそうです。

また、鏡は直径七寸六分(約23cm)で、「新作明鏡 幽律三剛 配徳君子 清而且明 銅出徐州 師出洛陽 彫文刻鏤 皆作文章 取者大吉 宜子孫」の銘文が刻まれていました。さらに詳細な経緯は滋賀県公文書館所蔵の滋賀県歴史的文書にあります(2)。

湖の水運と陸路の結節点であり、重要な地域であるからです。

また、織部古墳は崖の上のような地形に位置します。これは古墳時代にはこの崖が湖岸で、琵琶湖に面した岬のような高台に古墳が作られたようです。さらに、南側の現在の東レ周辺や若松神社周辺にも琵琶湖方向に岬のように突き出す地形や、逆に内陸側へ入江のようになっている地形が確認できます。このような地形を利用して織部古墳の南側に古墳時代の港や船溜まりがあったのかもしれない。この港のあり方は近世までの琵琶湖の主要な港とよく似ています。

このような立地や地形から、古墳時代の瀬田地域はそれ以降の時代と同様に琵琶湖の水運と陸路との交差点にあたる重要な地域だったのでしょうか。そしてこの瀬田地域を治めた人物が三角縁神獸鏡を所有し、織部古墳に埋葬されました。

織部古墳からは琵琶湖を眺望でき、また琵琶湖を行き交う船や古代の道から織部古墳が見えたことでしょう。織部古墳は、近江の古墳時代前期における瀬田地域の重要性を顕示するモニュメントだったのだ。

古より瀬田地域が交通の要衝であり、又、卑弥呼とつながる人物が住んでいたことが伺われる、ロマン溢れる興味深いお話。福西様ご寄稿ありがとうございました。

次に、京都帝国大学の梅原末治先生が、当時の栗太郡や野洲郡の古墳を調査された際に、織部古墳についても調査されており、先の片山幸太郎さんから、古墳の形や規模、三角縁神獸鏡等が発見されたときの状況を詳しく聞き取られています(3)。ここからまず古墳の形を読み取っていくと、上部の平坦面が直径三間(約5.45m)ほどであったとのこと。大津市教育委員会文化財保護課の田中久雄さんは、周辺の地形から墳丘の裾の直径は約30m、墳丘の高さは3m程度ではないかと述べています(4)。そして古墳の北側に家を建てる際に、墳丘の一部を削ったことによってその部分が崖状になっていたようです。ここに台風の影響で中央に亀裂が入り、崩れそうだったこと、瓦の材料である粘土を採取する目的で、残った墳丘の西側半分を掘削したそうです。

その際に前述の鏡等が出土したことです。さらに梅原先生は、鏡などが墳丘のどのあたりから、どのような状況で見つかったのかを聞き取っています。墳丘の上部から三、四尺(1m前後)下から、鏡の文様や銘文がある側を下にして出てきたようです。さらにその下から刀剣類が出土し、「恰(あたか)も鏡をその上に置けるが如き」状況だったとのこと。

以上のことから、古墳の形は、墳丘の高さ3m、墳丘頂部径約5m、墳丘裾径約30mの円墳であったようです。古墳が作られた具体的な時期は不明ですが、出土した三角縁神獸鏡から、古墳時代前期、四世紀頃には間違いないでしょう。埋葬施設の規模や構造は不明ですが、竪穴式石室のような大規模なものではなく、粘土槨(ねんどかく)と木棺のみの埋葬施設だったと思われる。

注(1)『考古学会編一九一四(集報)近江國瀬田村の発掘品』『考古学雑誌』第四巻第十二号
これは「近江國栗太郡瀬田村大字南大萱字織部に於いて、去明治四十二年二月二十日発掘せられたる。四神四獸鏡一、土器残片一、鉄板長八寸五分幅二寸二分弱一、斧頭二、剣身残片等は、今回同地の入片山幸太郎氏より東京帝室博物館に寄贈せられたりと云ふ。前掲品目中、四神四獸鏡は径七寸六分銘あり曰「新作明鏡 幽律三剛 配徳君子 清而且明。銅出徐州 師出洛陽 彫文刻鏤 皆作文章 取者大吉 宜子孫」とあり」とある。

(2) 滋賀県立安土城考古博物館編 二〇一九「近江の考古学黎明期-近江風土記の丘開設50周年キックオフ企画」
(3) 梅原末治 一九二一「栗太郡野洲郡に於ける二三の古式墳墓の調査報告」近江国に於ける主要古墳の調査録其二『考古学雑誌』第十二巻第三号。これに「此の塚の上部径三間許り平坦となり。ここに古く相撲場を設け等して、為に樹木の生ずることなく、周囲に二三の松樹ありしのみ。嘗てその北隅に接して家を建てたる際封土の一部を削り、此の部崖状を呈せり。其の後大風ありし地、残存封土の中央に裂目を生じ、一半部倒壊の虞れありしを以て、瓦の原料とするの用を兼ね、其の西北半の土砂を採掘せしに、表面下約三四尺、封土の略ぼ中央に當り、鏡の背面を下にして遺存するを發見し、ついで鏡の下に刀剣類あり。恰も鏡をその上に置けるが如き状を呈せり。また鏡の北東の略ぼ同一水平面上よりは斧頭等を見出し、西南よりは上述の弥生式の皿を發見せり。但し此の皿はその存在の層位を異にせり。なほ鏡の付近よりは土製の鳥の如きもの出たり」としている。合せて後藤守一が出土遺物の観察を記載している(後藤守一 一九二一「近江國栗太郡瀬田村大字南大萱字織部古墳伴出遺物」『考古学雑誌』第十二巻第三号)。

(4) 田中久雄 二〇〇四「第一章 遺跡 織部古墳」『南大萱史』南大萱史編さん委員会。また、『滋賀県史蹟名勝天然記念物調査概要』にも「もとは高さ七、八尺。上部の径三間程の平坦、底径は約十間の円塚であった」とある。滋賀県史蹟名勝天然記念物調査會編 一九三六「南大萱古墳」『滋賀県史蹟名勝天然記念物調査概要』。

(5) 細川修平 一九九八「古墳時代における琵琶湖およびその周辺地域」『紀要』第十一号 財団法人滋賀県文化財保護協会
参考文献
・田辺昭三 岡田精司 一九七八「第一章 湖都の黎明 第四節 豪族の伸長」『新修 大津市史』第一巻 古代 大津市役所
・西田 弘 一九八一「87 滋賀県下の古墳出土鏡について(1)」『滋賀文化財だより』No.51 財団法人滋賀県文化財保護協会
・森谷勉久ほか 一九八六「瀬田」『新修大津市史』第九巻 南部地域 大津市役所
・田中 琢 松浦俊和 一九九九「原始・古代 4 古墳の出現と展開」『図説 大津の歴史』上巻 大津市
・下垣仁志 二〇一六『日本列島出土鏡集成』同成社
・下垣仁志 二〇一八『古墳時代銅鏡論考』同成社

ふれあい